

中井スピカ歌集

『ネクタリン』

(本阿弥書店)

目覚めればそのたび少し老いている陽射しを浴びた一  
対の鍵

ふたりでもふたりの孤独 たまご二個スジとちくわは  
一つと頼む

現実に対して二極化を迫らず、合間で漂うものを捉える  
表現が豊かである。孤独だからこそ感じられるすこしの温  
もりを大切にしている作者が浮かぶ。

違うけど頷く方が早いから薄いブラウス擬態している  
オーケストラのチューニングつぼく夜行バス来るたび  
増える各国の語彙

この他にもヘーゼルナッツ、スリーサイズ等カタカナの  
素材を軽やかに使いこなす風通しのよさが印象的だ。現代  
的・口語的な言葉遣いを、わかりやすくリズムよく使って  
いるところが巧みである。また、自分以外の人との心の距  
離の取り方がこの時代らしさを思わせる。家族の形が移り  
変わる時期にあつて、その有様をうまく捉えている。

八十回電話をかけてきた後に私を忘れてそれきりがい  
い

認知症の母を詠んだ歌。家族の死や病について、壮絶に  
健気に詠うというよりも、どこか突き離して見るような心  
の置き方をしている。心には表や裏だけでなく奥行きがあ  
るのだと気づかされる。第一歌集。

(中村 恵)

長谷川麟歌集

『延長戦』

(現代短歌社)

主体はなんだか居心地が悪そうだ。友達や恋人をモチー  
フにした作品もみられるが、それでは満たされないなにか  
がある。

僕たちは明るいなかでも暗いほう撤去されない遊具み  
たいに

本当に詳しい人が現れて空気まるごと持っていられる  
しらすの Pasta あんまり美味しいわけじゃなく何な  
んだろうといつつも思う

明るいけど暗い。多少詳しいけど熟知はしていない。ど  
つちつかずのスタンスで何なんだろうと思いつながら、なに  
にも振り切ることのできていない主体の姿が浮かぶ。

やるときはちゃんとやろうと注意する側にまわってい  
る宵の口

普段は主体もちゃんとしていない側なのだろう。けれど、  
時としてちゃんとすることを求められる。主体は本意な  
がらもそれに従っている。せめてもの抵抗に宵の僕ではな  
く「口」と表現をして。

カーキーのシャツがこんなに似合うとは、自分の可能  
性が恐ろしい

日常の些細なよろこびを、あるいは葛藤を素直な文体で  
記録された歌が印象深い。なにもない日を詠むことで生ま  
れる抒情が読後に残る。

(松下 誠一)